資料３

計画案の記載内容を踏まえた国としての開催意義

令和３年３月５日

1．日本で国際園芸博覧会を開催する意義

図　日本で国際園芸博覧会を開催する意義　（国際園芸博覧会検討会報告書概要版より）

- 本園芸博の会場となる旧上瀬谷通信施設で行われるまちづくりを通じて、Society5.0の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生の推進に関する政策を実践。
- 国際園芸博覧会では、その成果を、「SDGs実現に貢献し、その先の社会も見据えた日本モデル」として提示する場とする。
- 博覧会後もさらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs実現やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすことが期待される。

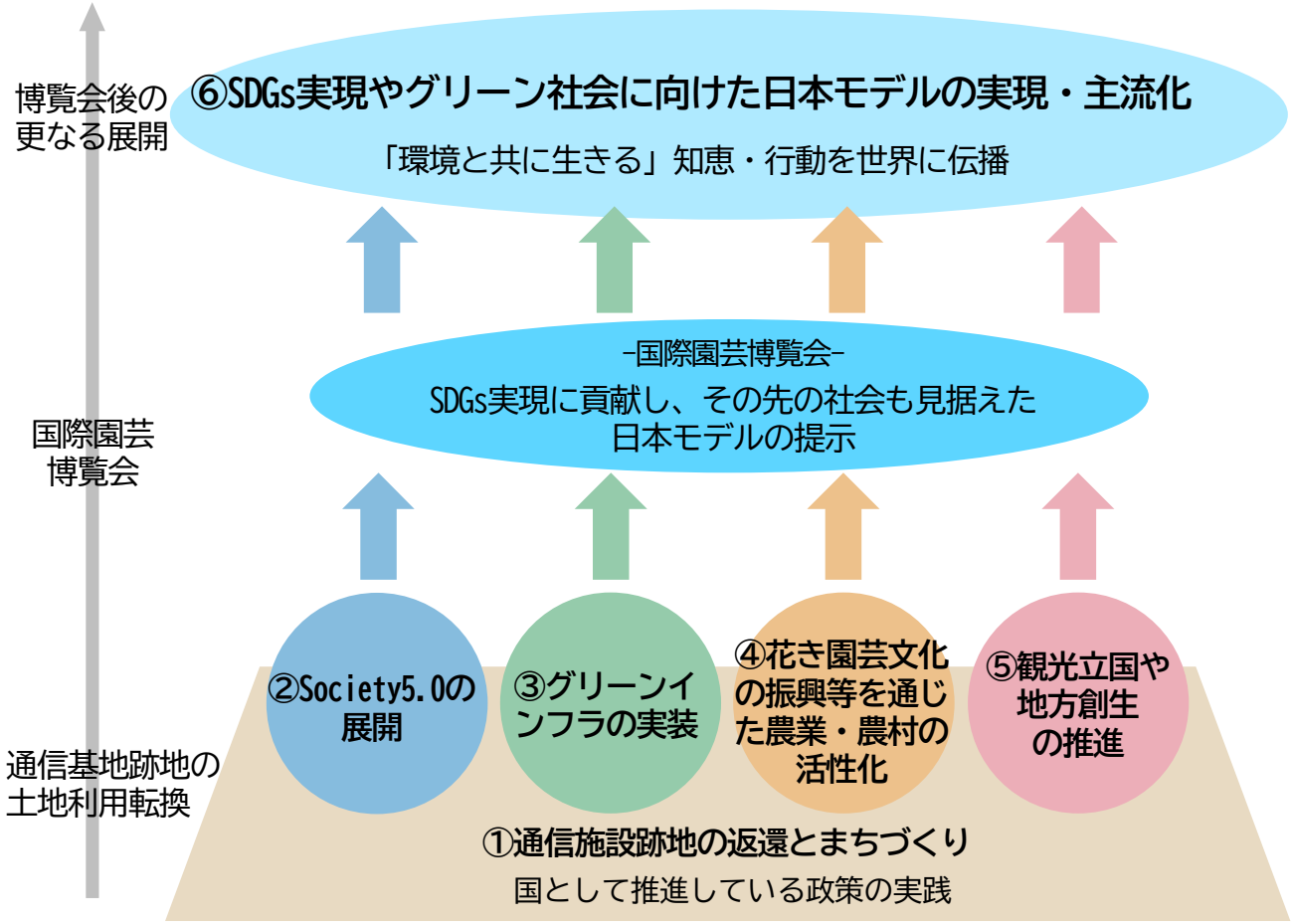


図　日本で国際園芸博覧会を開催する意義を実現するための具体的な方向性

※丸数字は、次項の項目番号に対応

2．横浜市の計画案の記載内容を踏まえ展開すべき内容

①通信施設跡地の返還とまちづくり

＜昨年度の検討会での整理＞

• 首都圏にある広大な敷地であり米軍の通信基地として開発が抑制されてきた歴史を有する旧上瀬谷通信施設が、国際園芸博覧会という花と緑の祭典を契機に、平和で持続可能な土地利用に転換されるとともに、博覧会の意義、成果をレガシーとして継承し、世界に発信する役割を担うことは大きな意義がある。

【横浜市の計画案を踏まえた、BIE認定に向けて充実すべき検討内容】

- 本園芸博の会場となる旧上瀬谷通信施設は、大規模な土地利用転換を通じて、世界的な環境変化を踏まえた国の政策の実践の場、平和で持続可能なまちづくりの国内外への展開のモデルの場となると考えられる。
- 国が推進する政策に関連する様々な取組等を開催前から展開し、その成果を本園芸博において共有、発信することにより、本園芸博の理念が国内外に継承され、SDGs実現やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化に向け先導的役割を果たすことが可能となる。
- 横浜市の計画案は、郊外部活性化の都市モデルとしての発信、市民力を発揮したグリーンコミュニティ醸成、グリーンインフラ実装を見据えた開催準備段階からの産学官連携等を行うとしており、上記の考え方に沿ったものであると考えられる。
- 今後、以降②～⑥に整理する国の政策の推進に係る取組の成果が博覧会において示され、その後のまちづくりにおいて確実に継承され、ひいては国内各地に広く展開していくための視点をもって、具体的な取組を検討していくことが必要である

【具体的な取組イメージ】

博覧会前からの取組	• 返還施設の歴史を俯瞰した大規模な土地利用転換 • 園芸博後を見据えたまちづくりガイドラインを共有、会場整備から博覧会後まで引き継ぐ • 博覧会開催までの区域の有効活用
博覧会時	• 上瀬谷の歴史的な経緯や今後のまちづくりを示し、通信施設跡地が友好平和な未来につながっていく姿を発信
博覧会後の展開	［旧上瀬谷通信施設におけるまちづくり］ • 通信施設跡地が、園芸博を経て、人々の交流の舞台となる ［全国への展開］ • 持続可能な郊外部のまちづくりのモデルに

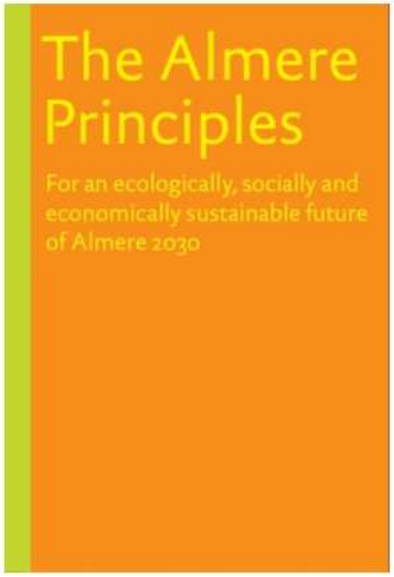
【参考】他の博覧会等における園芸博後のまちづくりに関する取組例

- オランダ・アルメーレでは、持続可能な開発等に向けた考え方を整理し、園芸博の会場計画への適用を契機に、より広く普及させていこうとしている。

■アルメーレ（フロリアード）

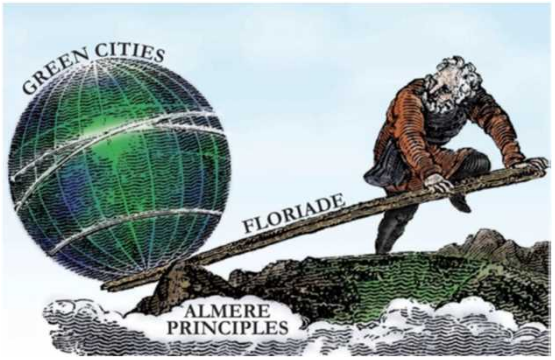
アルメーレ原則（持続可能な開発のための原則）

- アルメーレ市が策定した、「持続可能な開発のための原則」を、園芸博会場の開発に適用。
- この原則を、園芸博を契機に市全体に広げていくことを目指している。



【アルメーレ原則】 ＊以下、資料作成者による仮訳

1. **多様性を育む**
2. **場所とコンテクスト**
   ・都市のアイデンティティの強化、市の独自の強みに基づき、周辺地域との関係を維持
3. **都市と自然の組み合わせ**
   ・自然と人間の相互関係の意識を強化
4. **変化の予測**
   ・計画に柔軟性と適応性。予測できない機会に対応。
5. **イノベーションの継続**
   ・プロセス、技術、インフラの改善促進。実験と知識の交換を支援
6. **健康的なシステム**
   ・生態的、社会的、経済的、あらゆる健康の相互依存性を認識し、解決策を示す
7. **市民のエンパワーメント**
   ・市民が都市の創造、維持の原動力。市民による可能性の追求を促進



出典：The Growing Green Cities Principles Prepared for:The City of Almere

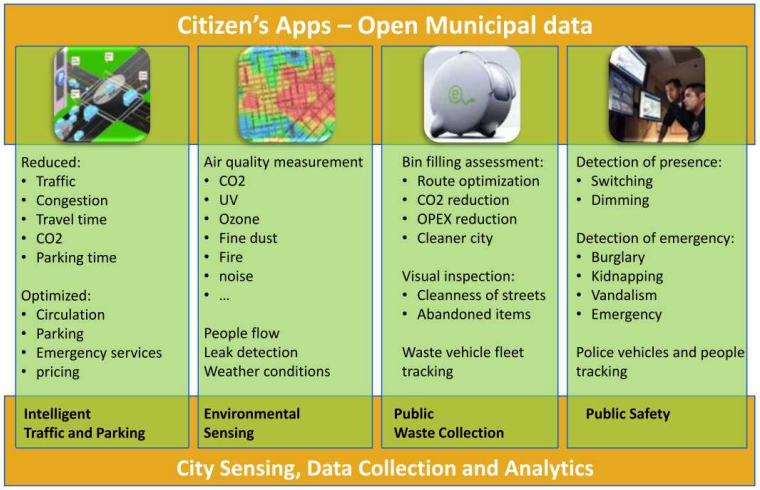
【参考】他の博覧会等における園芸博後のまちづくりに関する取組例

■アルメーレ（フロリアード）（続き）

- 園芸博会場を含むアルメーレの今後のまちづくりの方向性として「Green City Almere」を掲げ、スマート社会（Almere Smart Society）を実現するための考え方を、園芸博開催前からまとめている。

3つの重要原則

・オープンプラットフォーム（連携）
・オープンデータ（標準的に入手可能）
・オープンイノベーション（実践から生じる）



オープンデータの例

出典：Green City Almere Almere Smart Society(City of Almere)

②Society5.0の展開

＜昨年度の検討会での整理＞

• 日本における国際園芸博覧会は、当該分野の国内外の先端技術が一同に会することで世界からの知恵を得ながら、新技術を活用した水や緑の都市空間を国内外に発信し、日本におけるSociety5.0の展開を加速させるとともに、農業・食料生産、環境・気候変動等様々な課題について、Society5.0が実現した社会のあり方を考える機会となり、より社会を進化させるプロセスともなり得るものである。さらに、新しい技術等を活用し、博覧会会場のみならず会場外から博覧会に参画できる機会の実現等、Society5.0がもたらす新しい博覧会や新しい体験の提案も期待できる。

【横浜市の計画案を踏まえた、BIE認定に向けて充実すべき検討内容】

- 横浜市の計画案では、花き園芸・農業における先端技術導入、バイオミミクリー等の分野の可能性の提示等について示しており、また博覧会運営等の土台としてICTを活用することとしているなど、Society5.0の推進に関する国の政策を実践する場になるものと考える。
- 今後、緑化・花き園芸等を中心に、最新技術の実証、モデルケースの場とし、人々が最新技術を取り入れていく契機となるための行動を実践し、国内外に広く展開していく視点をもって、具体的な取組を検討していく必要がある。

【具体的な取組イメージ】

博覧会前からの取組	**ICT等を活用した持続可能なまちづくり** • 会場内外の農地や研究機関等と連携し、スマート農業や緑化・花き園芸等に関わる最新技術を用いた生産を具体的に実践、その成果を博覧会にて検証　等
博覧会時	**デジタルによる循環型社会の提案** • ICT技術を駆使し、現実の会場と異なる魅力的な体験を提示する新たな博覧会の在り方を提示 • 現実空間としての会場においてデジタルを活用した環境負荷低減、循環型社会形成の構築 • IoT、AI、ロボット化等先端技術を活用したスマート農業の取組を提示　等
博覧会後の展開	[旧上瀬谷通信施設におけるまちづくり] • ICTが活用された郊外部の新たなまちづくり [全国への展開] • デジタル技術と自然環境が融合した、郊外部の新たなモデルに • スマート農業の加速化、展開による食料増産・安定供給、労働力問題の解決等の促進

【参考】他の博覧会等におけるSociety5.0（技術革新等について）の取組例

- 会場運営のための最新技術活用にとどまらず、技術開発への資金提供や、会場内外を最新技術の実装・実証の場とすることで、技術進展を促進させるものとなっている。

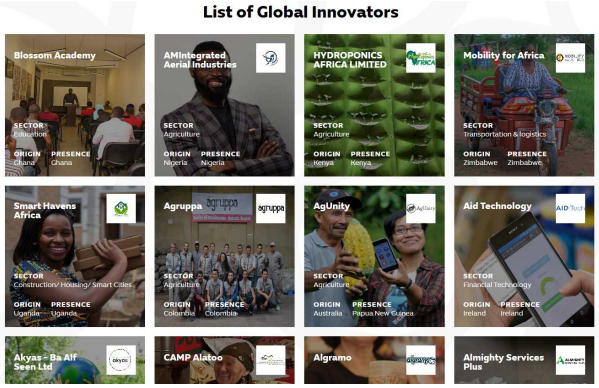
■ドバイ万博

Expo Live programmes

- 万博を革新のエンジンとするため、国、組織、イノベーターの連携のためのネットワーク確立を目指すもの。
- 革新的な解決策や学生の連携に対して資金提供する。

①Innovation Impact Grant Programme

革新的なソリューションに資金提供。イノベーターは、Web上及び実際のパビリオンで紹介される。



②University Innovation Programme

大学生間のコラボレーションを推奨･助成金を授与、情報交換の機会を提供。

■北京国際園芸博覧会

スマート園芸博覧会

- 5G電波が会場内をフルカバーする。
- スマートフォンのアプリ「EXPO2019」をリリース。アプリで交通、周辺のレストラン、宿泊施設、観光スポットなどを検索できるほか、「植物教室」の欄で植物、花、園芸に関する知識も学べる。
- 園内の5G展示ホールではドローン、無人運転、8K高画質映像、自動販売などの最も先進的な応用シーンを体験できる。

https://www.expo2020dubai.com/en/programmes/expo-live/global-innovators
http://japanese.china.org.cn/life/2019-04/23/content_74712406.htm

【参考】他の博覧会等におけるSociety5.0（技術革新等について）の取組例

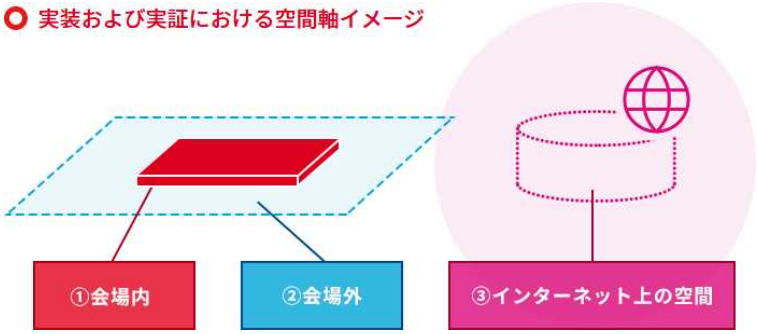
■大阪・関西万博

People’s Living Lab促進会議

- 万博会場等で実装あるいは実証する「未来社会（SDGs達成＋Beyond、Society 5.0等の実現）」のアイデアについて広く提案を募集。
- 博覧会開催後の実装を見据えるものや、会場外やインターネット上の空間における実装・実証まで、幅広く募集した。
- 最終的に491団体から1,016件の提案が集まった。

実装および実証における時間軸イメージ

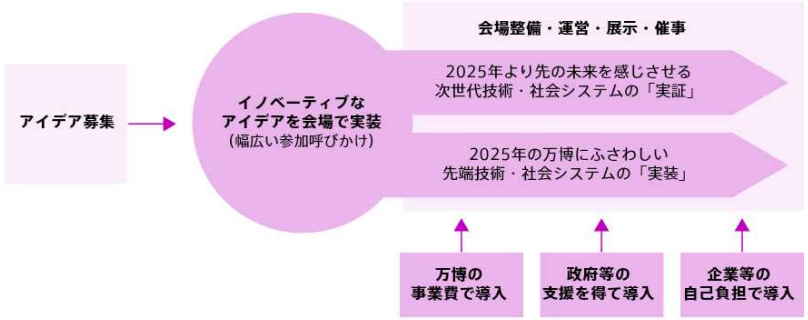
実装および実証における空間軸イメージ



最新技術の活用

- カーボンニュートラル、デジタル技術、次世代モビリティなど、最先端の技術や社会システムを会場や運営、展示等に活用する未来社会ショーケース事業を実施

未来社会ショーケース事業



バーチャル万博

- ARやVRなどの先端技術を活用して、会場を訪れることのできない人でも会場外から大阪・関西万博を体験することのできるバーチャル万博を実施します。

バーチャル万博

	万博会場内（案内、展示、催事）	万博会場とは別のプログラム
万博会場	会場内の展示や催事、運営サービスをバーチャル技術を用いて高度化	
オンライン空間	会場外からアバターで参加可能な万博会場をオンライン空間上に展開	会場の内容とは別のプログラムをオンライン空間上で展開

出典：大阪万博基本計画、https://www.expo2025.or.jp/pll/

③グリーンインフラの実装

＜昨年度の検討会での整理＞
- 横浜における国際園芸博覧会は、旧上瀬谷通信施設において、国際園芸博覧会の開催とその後のまちづくりを通じてグリーンインフラを実装し、自然地形を活かした空間の形成やリダンダンシーの確保、エネルギーの地域内循環等を実現することは、グリーンインフラの概念に基づく持続可能な都市開発のモデルを示すものとなる。
- また、大阪花の万博を契機として花のまちづくりが全国に広がったように、国際園芸博覧会は全国にグリーンインフラを普及させるための起点となるものである。全国的に緑地、農地等の自然環境の積極的な保全・活用が拡大することで、ひいては、自然との共生等を促進する効果を有する適切な国土管理を実現するものである。

【横浜市の計画案を踏まえた、BIE認定に向けて充実すべき検討内容】

- 横浜市の計画案は、緑を都市に融合させる「グリーンシティ」の概念の可視化を事業コンセプトとし、上瀬谷の自然特性を活かした会場計画を示すとともに、グリーンインフラモデルの発信がレガシーの方向性となっているなど、グリーンインフラの実装に関する国の政策を実践する場となると考えられる。
- 今後、国内外で更にグリーンインフラの知見が積み重なることが想定されることを踏まえ、本園芸博では、グリーンインフラ技術に関する科学的根拠やエビデンスを整理し、様々なコミュニケーション手法等を活用して共有・評価する機会とし、博覧会展示としても会場全体で先進的なグリーンインフラを発信する視点をもって、具体的な取組を検討していく必要がある。

【具体的な取組イメージ】

博覧会前からの取組	**グリーンシティ・イニシアティブによるまちづくり** • 会場整備にて園芸博後も使用できる素材を利用 • 定量的な検証に基づく会場内施設等のグリーンインフラ実装　等
博覧会時	**グリーンインフラで創る国際園芸博覧会** • グリーンインフラ技術を評価するコンペティションの開催による最新技術の共有 • グリーンインフラが実装された会場や会場設備自体を展示の一つとして発信　等
博覧会後の展開	[旧上瀬谷通信施設におけるまちづくり] • 園芸博の会場計画の思想が継承されたグリーンインフラのまちづくり [全国への展開] • グリーンインフラ実装のモデルとして発信

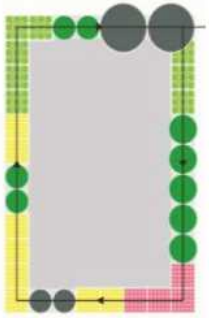
【参考】他の博覧会等におけるグリーンインフラの取組例

- 会場計画の基本的コンセプトに緑道や緑化の整備が示されている。アルメーレでは、園芸博後の住区としての利用が見据えられており、園芸博の時点で各住区の周辺に緑の帯が配置されている。

■アルメーレ（フロリアード）

会場計画

- 会場は、3.2kmの緑道、8haの緑化が行われる。
- 192の区画には、4m幅の緑化帯が整備される。
- 各区画は、園芸博後には住区となる。



Sustainable EXPO

- 展示には持続可能な素材が使用される。
- 博覧会中に使用されるものは、博覧会後の使われ方がある。
  - ・別目的のために売却
  - ・再使用のために寄付
  - ・解体された材料は、素材バンクに

【参考】他の博覧会等におけるコンペティション例

- コンペティションでは、ＡＩＰＨ規則に基づく屋内・屋外庭園及び花き等を対象とするものに加え、各国が重視する考え方（サブテーマなど）をテーマとするコンペティションや表彰が行われてきた。
- 横浜においてもグリーンインフラなどをテーマとしたコンペティションを通じて、世界各国が有するアイデアや技術が披露される機会を用意することができると考えられる。

	園芸博	表彰テーマ例
2012年	フロリアード（フェンロー）	フロリアードの賞、庭園とランドスケープデザイン、他 フロリアードのテーマ賞（リラックス&癒し、グリーン・エンジン、教育&イノベーション、環境、ワールド・ショー・ステージ）
2016年	アンタルヤ	ホスピタリティ賞、文化振興賞、サスティナビリティ賞、歴史賞、生物多様性賞、教育的庭園賞、革新的庭園賞、革新的屋内展示賞、社会的責任賞、屋内展示賞 ＊園芸博のサブテーマ：歴史、生物多様性、持続可能性、グリーンシティ

④花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化

＜昨年度の検討会での整理＞

- 日本における国際園芸博覧会は、日本産花き輸出の拡大に加え、日本および世界の花き園芸と農業の知識と技術が集まり、国民に花き園芸及び農業・農村の価値が再認識され、共有されることで、花き園芸の振興、さらには、持続可能な農業・農村の実現に資するものとなる。

【横浜市の計画案を踏まえた、BIE認定に向けて充実すべき検討内容】

- 横浜市の計画案は、本園芸博を実験の場とした花き・園芸・農に関する新たな価値創造に向けた産業創出・育成を掲げており、また、花き園芸文化の定着をレガシーの方向性として示しているなど、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化に関する国の政策を実践する場になると考える。
- 今後、AIPH規則に基づく屋内・屋外庭園及び花き等のコンペティションや独自のコンペティションの実施、優れた花き品種・先進技術や持続可能な農業に係る展示、会場周辺部も含めた実際の農の取組を見せること等により、日本の優れた花き園芸技術や農業・農村、里山文化の重要性を発信する視点をもって、具体的な取組を検討していく必要がある。

【具体的な取組イメージ】

博覧会前からの取組	**花・緑・農・大地をいかしたまちづくり** • 会場周辺部も含め都市郊外部の実際の農の取組（生産、生活等）を紹介できるよう農家と連携した準備　等
博覧会時	**人と自然の関係が見える農・園芸文化** • 会場、会場周辺にて人々に実際の農の取組をみせる • 日本の優れた花き品種や技術をアピールするコンペティション、展示内容 • COVID-19等感染症流行に対応した花・緑への回帰やその効用に関する体験・展示 • 循環型で自然環境と調和した持続可能な農業に係る展示　等
博覧会後の展開	[旧上瀬谷通信施設におけるまちづくり] • 農ある生活が園芸博後も営まれ、都市郊外部の次世代のライフスタイルを提示 [全国への展開] • 我が国の花き・園芸技術の評価による花き園芸振興・輸出拡大の促進 • 環境に配慮した持続可能な農業の普及・展開 • 新たな時代における田園都市のモデルに

⑤観光立国や地方創生の推進

＜昨年度の検討会での整理＞
- 日本における国際園芸博覧会は、国内外の様々な地域、企業等から都市における花と緑のあり方が示され、日本の各地域が新たな知見と技術を得て、世界の人々が訪れたくなる、花と緑豊かな都市の形成を一層推し進める契機となる。
- 近年の観光で注目されるエコツーリズム、アドベンチャーツーリズムを促進するとともに、博覧会を通じた国内各地への誘客によって地方創生にも大きく寄与するものである。

【横浜市の計画案を踏まえた、BIE認定に向けて充実すべき検討内容】

- 横浜市の計画案は、本園芸博を、都市と地方、上瀬谷・横浜・日本・世界など、様々な要素が行き交う結節点となり、融合や対流、新たな関係性などを拡げていくものとして、国内各地への誘客等のハブとなることを掲げているなど、観光立国や地方創生の推進に関する国の政策を実践する場になるものと考える。
- 今後、本園芸博開催期間中の会場を観光資源と捉えるだけでなく、周辺地域との連携やPR、会期前からの誘客に関する視点をもって、今後の取組を検討していく必要がある。

【具体的な取組イメージ】

博覧会前からの取組	**交流による賑わいと活気あるまちづくり** • 会場区域を様々な主体による取組の実験場として活用 • 横浜市の中心部や日本各地との連携による、園芸博を活用した全国的な誘客や発信の展開　等
博覧会時	**花と緑をテーマとする観光の展開** • 日本各地の庭園を展示し、各地の文化、観光資源等を発信 • 園芸博の広報等にあたり、園芸博とその他の観光資源等を同時にPR • 日本各地の観光地へのハブとして、情報発信、グリーンツーリズムやアドベンチャーツーリズムの促進等、花と緑をテーマとする観光の展開　等
博覧会後の展開	［旧上瀬谷通信施設におけるまちづくり］ • 園芸博後も日本各地とのつながりを持ち、訪れる人々への発信が続く ［全国への展開］ • 郊外部のポテンシャルを活かした観光体験提供のモデルに

【参考】他の博覧会等における観光振興に関する取組例

- 会場外の様々な地域で行われる取組との連携や、博覧会会場における国内地域のPRを実施しているものがみられ、また博覧会会場ができる様子自体を観光資源として誘客しているものもある。

■大阪・関西万博

全国各地の自治体・地域からの参加

- 基本計画において、全国的に万博に関連する自治体や地域のイベントの開催促進のスキーム検討を示している。

地域の各所で行われる様々な活動との連携

機運醸成や地域の魅力に触れる機会を創出するため、大阪・関西万博のステークホルダーである自治体等が主体的に展開する万博関連事業等との連携を想定し、会期前及び会期中に「TEAM EXPO 2025」プログラム等、全国的に本万博に関連する自治体や地域のイベントの開催を促進するようなスキームを設計することを検討する。例えば、瀬戸内海沿岸地域のイベントと連携した相乗効果を生み出す仕組み等を検討する。

関西広域連合との連携

関西府県と政令指定都市で構成する関西広域連合による取組や意欲ある関西の自治体が大阪・関西万博会期中に各地で主体的に実施する万博関連事業等との連携を図ることにより、テーマの実現に貢献する関西の魅力・活力を世界に発信していく。

■アルメーレ（フロリアード）

フロリアード・プレビュー

- 約1年前から、会場建設予定を一般公開する（チケット予約制）。地元住民には割引。
- ボートツアー、園内交通による会場全体のガイド、パビリオンの訪問が可能。

Experience the themed pavilions

You'll be received at the Preview Centre, a circular eyecatcher. The themed pavilions provide an impression of what to expect during Floriade Expo 2022.

Explore the site

Tour the site on board an electrically-powered, scale-model train so you can see and hear what you will be able to experience during the Expo!

⑥SDGs実現やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化

＜昨年度の検討会での整理＞

- 大阪・関西万博の２年後に開催する国際園芸博覧会は、大阪・関西万博のテーマ、レガシーを継承し、人と自然との関係性の中から、幸福な生き方をより具体的に示す場となり得るものであり、自然との関わりの蓄積が豊かで地球環境時代に先導的役割を果たすと考えられる日本の未来の姿を想起するとき、国が関与して国際園芸博覧会を開催することは意義がある。
- 「幸せを創る明日の風景」をテーマとする国際園芸博覧会は、花や緑、農とそれに伴う人々のふれあいを通じて、人類の幸福を模索し、文化の継承やその達成に向けた人々の取組とともに、SDGs の達成を具体的かつ社会的なランドスケープとして明らかにするものである。

【横浜市の計画案を踏まえた、BIE認定に向けて充実すべき検討内容】

- 本園芸博は、SDGs目標年の３年前に開催される博覧会として、これまでの取組の成果確認と総仕上げ、さらには2050年カーボンニュートラルの実現、気候危機への対応など、グリーン社会の実現に貢献するため2030年以降を見据えた多様な主体の新たな取組を共有する視点を持つ必要がある。
- 横浜市の計画案では、「自然との調和」、「緑や農による共存」等のサブテーマの下に事業計画が示され、また会場計画では持続可能性も考慮されているが、今後、更に具体的な検討が必要である。

【具体的な取組イメージ】

博覧会前からの取組	• 2030年及び2030年以降の目標像からのバックキャスティングから、上瀬谷において達成すべきSDGsの取組方針を立案、博覧会前から多主体が共有　等
博覧会時	• 世界中から花や緑に関するSDGs推進とグリーン社会実現のための取組を募集し、オンライン等を通じて世界の取組を共有 • 花や緑が、どのようにして環境や社会をより良くするのか、SDGsの各目標との関連を持たせながら提示　等
博覧会後の展開	[旧上瀬谷通信施設におけるまちづくり] • SDGsの目標をフレームワークとするまちづくりの取組評価 [全国への展開] • 「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、またSDGs実現やグリーン社会に向けた郊外部のまちづくりの成功モデルとして国内への水平展開

【参考】他の博覧会等におけるＳＤＧｓに関する取組例

- 様々な主体とSDGsの取組について共有し、加速させていこうとする内容になっている。

	園芸博・万博	SDGsの取扱い例
2015年		SDGs採択
2019年	北京＊	FAO（国連食糧農業機関）とUNOPS（国連プロジェクトサービス機関）がSDGsをテーマに展示 日本は、政府出展の基本的コンセプトでSDGsについて言及
2021年	ドバイ	グローバル・ベストプラクティス・プログラム（SDGs達成に向けた好事例を世界から募集しコンペティション開催）を実施 ⇒詳細P.4
2022年	アルメーレ＊	Floriade Dialogues（知識の共有とグリーンイノベーションの加速を目的にしたイベント）を実施。イベントのテーマは、SDGsの各目標と関連づけられている ⇒詳細P.4
2025年	大阪・関西	SDGs共創プロジェクト（社会課題に取り組む人、組織の共創によるSDGs貢献事業として推進していくもの）を実施 その他、小中学校を対象とするものも開催 ⇒詳細P.5

＊：国際園芸博覧会

【参考】他の博覧会等におけるＳＤＧｓに関する取組例

■ドバイ万博
Global Best Practice Programme

- 世界の課題に対する実際の解決策を紹介し、それらを他の場所に拡大することが目的
- SDGsに沿った５つの分野に焦点を当てており、1,175件の提案から、25件のプロジェクトをベストプラクティスとして選定。
- 選定されたプロジェクトはオンライン上でもその詳細が示される。

GLOBAL PLASTIC WASTE DEPOSIT AND TRACKING SYSTEM, EMPOWER | NORWAY

Recycling plastic using blockchain

Empower is building a digital solution to incentivise the collection of plastic waste and to track it throughout the supply chain.

QUESTION COFFEE 4 SDGS, SUSTAINABLE GROWERS | RWANDA

Promoting women coffee farmers

Sustainable Growers works to improve the livelihood of women farmers and their families by promoting local coffee consumption and barista training in Rwanda.

【5つの分野】
〇レジリエントな居住地　　〇暮らしの質向上と企業開発
〇社会開発（保健･衛生/教育）　〇水、食料、エネルギーの安全保障
〇包括的かつ持続的なサービスの提供

https://www.expo2020dubai.com/en/programmes/best-practice-programme

■アルメーレ（フロリアード）
Floriade Dialogues

- 知識の共有とグリーンイノベーションの加速を目的にした一連のイベント。
- 開催４年前から開始し、ウェビナーや他園芸博時を利用して開催を続けている。

2018	Start Floriade Dialogues
2019	3 Floriade Dialogues - Special edition Expo Beijing
2020	2 Floriade Dialogues 4 Webinar Floriade Dialogues
2021	4-6 Floriade Dialogues Special edition Expo 2020 Dubai
2022	X Floriade Dialogues Summit

2021

- **Floriade Dialogue | Friday 21 May 2021 |** Agro Forestry Strategy: Biodiversity (SDG13/SDG14 /SDG1)
- **Floriade Dialogue | Friday 25 June 2021 |** Hortifootprint & Residual Flows (SDG6)
- **Friday 17 September 2021 |** Global Partnership & Sustainable Food (SDG8)
- **Friday 15 October 2021 |** Urban Food Strategies (SDG1/SDG2/SDG12)
- **Friday 26 November 2021 |** Climate Proof & Smart Cities (SDG13)

2021年に予定される開催テーマ

https://floriade.com/en/floriade-dialogues/

【参考】他の博覧会等におけるＳＤＧｓに関する取組例

■大阪・関西万博

TEAM EXPO 2025 プログラム

- SDGs達成のためのアイデアを小中高生から募集するコンテストを実施。

「TEAM EXPO 2025」プログラム／共創チャレンジ

大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現するため、自らが主体となって未来に向けて行動を起こしている、または行動を起こそうとしているチームの活動のこと。
分野は問いません。チームの皆様が「ワクワク」しながら進めているものについてご登録ください。
そして、皆様が達成したいことを世の中に「宣言」してください。
詳しくはこちら

「TEAM EXPO 2025」プログラム／共創パートナー

当プログラムに賛同いただき、自らが主体的かつ継続的に当プログラムに合った独自の活動を展開していただくことで、多様な共創チャレンジの創出・支援を担っていただく法人・団体のこと。
各共創パートナーは、それぞれが持つ強み（人的ネットワーク、人資源・ノウハウ、資金、フィールド、情報発信力など）を活かした独自の活動のテーマを掲げて活動いただきます。
詳しくはこちら

小中学校の教育プログラムに展開

- 小中学校の授業のひとつとして、SDGsについて学ぶプログラムを実施。
- 昨年10月から、大阪府内の小中学校で開始。11月から12月に、SDGsに取り組む企業が自社の取組内容を発表し、子どもたちのアイデアに対して企業意見交換を行う「アイデアミーティング」を開催、2月から3月に、子供たちが授業等を通じた学んだ成果を発表する「ジュニアEXPO」の開催を予定。

https://www.expo2025.or.jp/news/news-20201009-01/
https://www.expo2025.or.jp/team/news/2020-10-09-96/